

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	歴史研究所調査研究事業	会計	一般会計	事業No.	770	施策順No.	61-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-8-11-1		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	歴史研究所		
施策	61 地域資源の発見			事業期間	開始	15	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・資史料(文書、画像史料、歴史的建造物、歴史的景観等) ・歴史研究に携わる、あるいは興味のある人						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	資史料存在可能箇所数(世帯37,925+自治振興センター等15+市内小中校及び郡内高校37+企業団体等20+コーディネーター抽出建造物等700)		38236	38576	38697	38000		
	意図	おおむね75歳以上市民(聞き取り調査対象年齢)		15309	16341	16761	15000		
対象をどう変えるか	意図	・建造物等を含む資史料の調査研究、聞き取り調査等により地域の歴史文化を解明する。 ・研究助成により、飯田・下伊那地域の歴史が多面的に研究され、生きた歴史情報が蓄積される。						目標達成度  <b>A</b>	
	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		研究所で発表した研究成果の数(単年度)	83	65	85	60	81		60
		研究活動助成数(単年度)	4	5	8	5	3	4	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	研究助成に関しては最多であった前年度に比して減少したが、当所予算計上件数の75%にあたる実績となった。 地域史研究集会と同時開催した共催円座飯田市・シャルルヴィル史学交流での研究報告等により目標を達成した。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過と共に失われていく資史料調査、建造物調査、聞き取り調査(オールラヒストリー)を実施し、資料の収集、保存、公開、活用を行う。</li> <li>・研究員、調査研究員、顧問研究員、市民研究員等は研究計画書に基づきそれぞれの研究課題に取り組み、客員研究員には研究活動への積極的な協力を求める。その成果を、研究集会、年報、定例研究会等で公表する。</li> <li>・市域を対象にした研究活動を助成することで研究成果の蓄積を図り、人材の育成に努め、広くその成果を地域に還元する。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 基礎共同研究	1 延べ調査回数	1 延べ193回
	2 基礎研究	2 件数	2 22件
23年度実施計画	3 研究集会8月21日～22日 飯田下伊那地域に関する研究報告会 テーマ「城下町飯田」(共催円座:飯田市・シャルルヴィル史学交流8月19日～20日)	3 参加者数	3 196人
	4 研究成果物等の出版『年報8』(研究報告、市民の研究投稿等)、『下伊那のなかの満洲8』、『現状記録報告書部奈』	4 出版数	4 3件
	5 地域史研究の振興・歴史研究活動助成	5 対象数	5 3件
	6 定例研究会	6 月例研究会等回数	6 10回
	7 ふるさと雇用再生特別事業として近世・近現代史料調査	7 委託	7 1式
	8 緊急雇用創出事業として地域歴史史料調査	8 委託	8 1式
	9 旧役場文書保存・活用(市町村合併特例交付金事業)	9 作業人数	9 延べ65人
	10 歴史的建造物の調査研究と保存・利活用(地域伝統文化総合活性化事業)	10 補足調査件数	10 16件
	11 地域歴史資料 山田居麓筆録ノート取得(住民生活に光をそそぐ交付金事業)	11 取得件数	11 2件
	1 基礎共同研究	1 延べ調査回数	1 延べ100回
	2 基礎研究	2 件数	2 22件
3 研究集会8月27日～28日 飯田下伊那地域に関する研究報告会 テーマ「戦後復興から高度成長へー飯田・下伊那の経験ー」	3 参加者数	3 100人	
4 研究成果物等の出版『年報9』(研究報告、市民の研究投稿等)、『下伊那のなかの満洲9』、『現状記録報告書Ⅲ』	4 出版数	4 3件	
5 地域史研究の振興・歴史研究活動助成	5 対象数	5 4件	
6 定例研究会	6 月例研究会等回数	6 10回	
7 ふるさと雇用再生特別事業として近世・近現代史料調査	7 委託	7 1式	
8 緊急雇用創出事業として地域歴史史料調査	8 委託	8 1式	
9 旧役場文書保存・活用(市町村合併特例交付金事業)	9 作業人数	9 延べ75人	
10 歴史的建造物の調査研究と保存・利活用(地域伝統文化総合活性化事業)	10 保存・利活用プロジェクトの参加人数	10 延べ20人	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域伝統文化総合活性化事業600(国)住民生活に光をそそぐ交付金300(県)ふるさと雇用再生特別事業補助金 2,000 (県)緊急雇用創出補助金 4,000(県)市町村合併特例交付金 1,500(そ)諸収入 965
	国庫支出金		900	900	1,000	
	県支出金		7,500	7,500	9,500	
	起債					
	その他		770	965	520	
一般財源		16,673	15,134	16,673		
計(A)		25,843	24,499	27,693		
正規職員所要時間			3,600			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			12,874			
トータルコスト A+B			37,373			

4 事業に対する市民や議会の意見

議会からは、研究所の各事業は、成果も含め市民理解を図ることが必要であると提言されている。外部評価委員会から、いかにしてこの地域の現状や課題を意識して研究計画を組み立てていくか考える必要、研究員が共同で研究するような対象や場を設定して地域像を共有し集約することが不可欠、興味関心をもつ市民を増やし大学ゼミとの連携で機動性を高めることが必要、徹底した調査研究の作業進行管理システムの整備が不可欠、市民や史資料所蔵者等への進行状況の適切な説明が不可欠、美術館・生涯学習課など連携を図り研究成果等を地域や学校へさらに発信できるようにとの意見がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域資源(地域にある自然・文化・歴史)が、見いだされる(調査研究し公表する。客観的な事実、意味や価値のあるなしを判断する)。	施策の成果指標又はムトス指標	見いだされた地域資源の数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・地域に残る歴史資料の収集・調査・整理等、地道な作業蓄積によって、研究成果数も増加傾向を示し、整備後の史料件数は公開に至った。 ・「飯田市域の本棟造と養蚕建築の悉皆的調査研究」については、(財)日本都市センター主催第1回都市調査研究グランプリを受賞し、歴史的建造物に対する住民意識の涵養を促した。		
	後期に向けた課題	・史料整理作業は、雇用対策事業(県支出金)によって進捗を望むことができたが、平成23年度末事業終了の後は作業に支障を生じ、調査研究事業全般の停滞が危惧される。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・雇用対策事業(H21-23)、市町村合併特例事業(H22-25)、地域伝統文化総合活性化事業(H22-24)住民生活に光りをそそぐ交付金(H22)国・県補助を確保し、史料調査・整理作業を推進した。		
	後期に向けた課題	・研究計画の決定によって、新たな経費が生じる場合がある。 ・限られた人員のなかで、市誌編さん事業との調整を図りながら進める必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・科学研究費等外部研究資金(福武学術文化振興財団H21-22)(第一住宅建設協会H21)(TASC研究助成H21)(住友生命H21)(科学研究費補助金H21-25)(都市史研究センターH18-22)の獲得によって研究費確保を行った。 研究会報告集等に広告掲載を依頼し、広告料収入を事業費に充当している。		
	後期に向けた課題	・補助事業採択への努力および、外部資金獲得への試み。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・資料の整理、保存、調査、研究、公開体制を整える基礎的経費の支出として適切である。		
	後期に向けた課題	・歴史資料の収集保管や調査研究は時代・世代を超えて伝え遺す重要な営みであるため、市が積極的に関与することで「資源の発見」を進めていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①満蒙開拓を語りつぐ会による「下伊那のなかの満洲」企画、聞き書き、編集による刊行 ②印刷予算の確保 ①座光寺古文書研究会・長野原歴史研究会・伊賀良を広める会・北方古老に聞く会・麻績の里振興委員会による地域資源の多面的発見②研究活動助成 ①胡桃澤盛日記刊行会による「胡桃澤盛日記」企画、編集による刊行②広報による賛助会員募集 ①建築士会による歴史的建造物の現地確認、まちなみハイク②建造物の詳細や歴史的背景など情報提供		
	後期に向けた課題	①新たな主体＝地域資源発見を行う②情報の共有や提供		
全体を通じて	4年間の振り返り	・研究所を拠点として、この地域の歴史研究を行う大学や研究機関の研究者の数が増えてきている。 ・市民研究員や地域の多様な主体との協働によって、調査研究を展開してきた。		
	後期に向けた課題	・「単位地域」論に立ち、膨大な資料の調査研究を計画的に進める。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------